

## 昭和57年度 中央指導者講習会

普及指導者・講師両コースで1月22～24日開催

昭和57年度の中央指導者講習会は、下記のとおり、来る58年1月22～24日（2泊3日）、静岡県の日本生産性研修会館において、サイクリングの指導普及にあたる普及指導者、ならびに講習会等においてサイクリングの講義を担当する講師を養成することを目的として開催します。

期日：昭和58年1月22～24日（2泊3日）

会場：生産性研修会館（静岡県田方郡函南町）

定員：両コースあわせて80名（北海道を除き各協会2名以内）

参加料：両コースとも1人…3,000円

申込み締切：1月8日（厳守）までに、参加申込み書に必要事項記入の上、所属協会へ申込んで下さい。

参加資格：

〔普及指導者コース〕

年令25才以上で、2級リーダー以上の資格を有し下記に該当するもの。

- ①協会の運営ならびに諸行事の企画、実施に協力するもの。
- ②サイクリングクラブおよび同少年団等の指導にあたるもの。
- ③その他、各協会ならびにJCAが特に認めたもの。

〔講師コース〕

年令30才以上で、普及指導者資格を有するもの。または同等以上の講師活動適任者。

講習内容：

〔普及指導者〕

(1)講義（予定）

- ①普及指導者の性格と任務
- ②サイクリング普及と社会的意義
- ③サイクリング指導上のポイント
- ④体力づくりとサイクリング
- ⑤サイクリング用車の基礎知識
- ⑥正しい乗車姿勢の指導法
- ⑦サイクリングの新分野

(2)研究協議（合同）

○JCAと地方協会

(3)小論文作成

〔講師〕

(1)講義（予定）

- ①JCA講師の性格と任務
- ②野外活動論
- ③指導者論
- ④自転車工学論
- ⑤サイクリングの医学的効用
- ⑥サイクリングと組織づくり

(2)実習

- ①論講（各自得意テーマを選んで10分位で順次講義する）

(3)小論文作成

講師（予定）

- 長谷川純三（筑波大学教授）  
青木 泰三（薫英女子短大教授）  
鳥山 新一（JCA 常任委員）  
清水 庸之（ " " ）  
太宰 茂秀（ " " ）  
山本 貞夫（ " " ）  
有吉 一泰（ " " ）  
植原 郭（シクロサロン店主）

## 第18回 関東甲信越ラリー 台風18号接近の中で開催



第18回関東甲信越ブロックサイクリングラリーが、茶臼山麓の黒磯市を中心に9月11～12日の両日604名のサイクリストが参加して盛大に開催された。

式典は渡辺実行副委員長の力強い開会宣言に始まり、大野大会会長、馬越JCA副会長の挨拶、続いて月江黒磯市長と益子那須町長の祝辞があった。

このあと参加者は台風18号の影響から時折強く降る雨と横風の中を、一路宿舎の那須ロイヤルホテルに向かってペダルを踏んだ。

コース途中には、静かな板室温泉郷をはじめ鮎で名高い那珂川、白煙吹く雄大な茶臼岳などがあったが、あいにくの天気でこれらの素晴らしい光景を見ることが出来なかった。今回のラリーには、早サイに参加しているお母さん達が数多く参加し、雨の中を頑張っているのがほほえましかった。

2日目は台風が関東地区に上陸濃厚というニュースで、閉会式も次回主管県の新潟の概略紹介と引継ぎを行ない実走は取り止め、自由解散とし幕を閉じた。

## 中・四国ラリー高知県大会 目抜き通りを450名がパレード

去る10月10～11日の体育の日を混えた2日間、四国は青と緑の南国土佐の景勝地で知られる高知県において、中四国ブロックサイク

リングラリー高知県大会が開催された。

県外から280余名と県内170余名の総勢450名が参加し、県民文化センターで、地元新堀小学校のトランペット鼓隊30数名の演奏の中で開会式の式典が行なわれた。

開会宣言は大会実行委員長の元木氏の力強い宣言で始められ、次いで中四国ブロック9県の協会旗が入場し、JCA曳地総務部長と市原大会実行委員会会長が挨拶、次いで中内高知県知事、山本市教育長が本大会が体育の日に対応しい行事であり、今後も増々サイクリング活動を通じ、多くの仲間が増え発展することを期待する旨の祝辞が述べられた。

その後、各県での功労者の表彰式、アトラクションとして地元保存会有志による太刀踊りと、はなやかなよさこい鳴子踊りが、会場を踊りめぐった。

そしてトランペット鼓隊を先頭に各県別に県庁から市内目抜き通りの帯屋町、土電棧橋までパレード行進し、その後桂浜の宿舎に向け快走した。



2日目の朝は桂浜において閉会式を行ない高知県よりブロック旗が来年開催県の岡山県に引継がれ閉会した。

その後高知県協会の計らいで、全国的にも有名な土佐犬による闘犬を観賞したが、まさに血をわかす迫力ある決闘であり、また特別天然記念物の長尾鶏の素晴らしい尾の長さとその珍種に目をみはるものがあった。

このあと3コースにわかれ、大自然の中でサイクリングを満喫しつつ現地解散した。

## ((母子でサイクリング)) 四国半周500キロの旅

10月7日付の朝日新聞に、母子で四国半周をサイクリングした記事が載っていた。

この母子は、倉敷市に住む主婦の今村真弓さん(36)と長男貴樹君(12)で、この夏休み四国半周500キロのサイクリングをした。この旅行の発端は、今年の正月、「夏休みに四国サイクリング旅行をしよう」とお母さんが提案したことからはじまり、貴樹君が半年がかりで企画書を作り、父親や担任の先生に配り許可を求めたという。

企画案は綿密で、今回の四国半周の旅について次のように宣言している。「今度は母もぼくも別々の目的がある。母は限界に挑戦する。ぼくは小学校最後の冒険にいどむ。以前とちがうのは、大きな目的とぼくの変わりようだ。前は母の後についていく方だった。今度はぼくが母を連れていく番だ」。

企画書には、日程表、宿泊先、走行距離、保険証、薬などの必携品がびっしり書き込まれていた。

第一日目は自宅から徳島までの約100キロのサイクリングで、一日目の宿舎の徳島のユースにくたくたになって着いたのは、午後7時。

その夜電話したお父さんには企画書と違うとひどくおこられた。しかしこの日は真弓さんにとって収穫の多い一日であった。坂道でおくれるとサドルを調整して自転車を交換してくれたり、自転車の後押しまでしてくれた。「この旅行の最大の収穫は、子供が親から独立していく過程がひしひしと感じられたことです」とお母さんの真弓さん。普通の生活を続けていたらつい見過ごしてしまうわが子の親離れの瞬間を、サイクリング旅行のおかげではっきりみることができたという。

来年は四国の残る半分、西四国一周をする計画の貴樹君に「来年はもう一人で行きなさい」と言った時、うれしそうに笑ったという。

母子で製作しているこの旅行記も着々完成

に近づいているという。記事の内容は以上だが、もっとたくさんこうしたファミリーサイクリストが増えてほしいものだ。

## 第1回 久留米トライアスロン

本場の1/3の距離に15名が挑戦



アメリカではトライアスロン競技が、ブームになってきている。

トライアスロンとは、一人で4kmの遠泳、180kmの自転車競技、42.195kmのフルマラソンを行う耐久レースで、5年前にハワイで初めて開催された時は、たった15人の参加だったといわれる。しかし今年の大大会では参加者をしばったにもかかわらず、男女合わせて、900人が参加し人気は急上昇している。

アメリカでは年内に200近い大会が予定されており、クロスカントリー・スキーやカヌーなどの組み合わせでも行なわれている。

今回、九州の久留米サイクリングクラブの主催による同大会が、11月3日にアメリカの1/3の距離で実施された。

当日は秋晴れの良い天気で、主催者も参加者も初めてということで緊張と不安でいっぱいであった。参加者は総勢15名、最年少は13才、最年長は43才で、女性の参加が一人いた。

結果は14名が完走したが、やはり日頃の練習がものをいうようであった。

### 〔久留米トライアスロン結果〕

- |    |            |             |
|----|------------|-------------|
| 1位 | 片岡 宏介 (24) | 3 : 06 : 23 |
| 2位 | 塚本 耕治 (33) | 3 : 24 : 04 |
| 3位 | 竹下 禮二 (35) | 3 : 28 : 08 |

## 58年度のJCA会員証

昭和58年度(1983年)のJCA会員証は、従来のブルーのケースのものから新しくグリーンのものに変更になります。

新規、更新会員とも来年度は新しい会員証を使用することになりますので、会員証の更新期限がきた方は、忘れずに手続きをして下さい。

また最近とくに、輪行袋の車船内持込みのマナーの低下が目立ってきておりますので、JCA発行のテキスト「楽しい輪行サイクリング」をよく読まれてから、十分注意して利用するように心掛けて下さい。

## 日本アドベンチャー・サイクリストクラブ 機関紙「シークベンチャー」創刊

関西サイクルスポーツセンターに勤務し、自転車冒険野郎として有名な池本元光氏が中心となって組織された日本アドベンチャー・サイクリストクラブから「シークベンチャー」という機関紙が創刊された。

同クラブは発足して三年半になるが、すでに会員は100名を越え各方面で活躍している。

紙名の「シークベンチャー」の意味は、英訳で冒険を探求するという意味で、英仏スペイン語等の自転車という固有名詞の呼称の一部であるシークとアドベンチャーとの造形語から成り立っている。

今後は内外の自転車冒険旅行に関するあらゆる情報を掲載し、これから自転車で限界に挑戦する冒険野郎たちに良きアドバイスできるような内容にしたいと考えているそうである。

現在会員も募集中とのこと。あなたもたずねてみてはどうですか。

日本アドベンチャー・サイクリストクラブ  
〒586 河内長野市天野町1304

関西サイクルスポーツセンター内  
TEL 0721-54-3100 内線41

自転車のある空間

## 「自転車美術展」

東京・自転車文化センターで開催

自転車をテーマにした日本人作家による絵画、彫刻など50余点を集めた「自転車美術展」が、東京・赤坂の自転車文化センターで、11月27日～12月19日まで開催される。

自転車文化センターは、「人と自転車のふれあい」をテーマに生まれたサイクル文化の殿堂であるが、この美術展は、スポーツとしての自転車、生活に密着した存在としての自転車をテーマにした非常にユニークな催物で、このテーマに見事に符合するものと言える。

出展作家は自転車競技者としての経歴をもつ加藤一氏、未来社会を夢のある構成で表現する真鍋博氏など、30余名が予定されている。

会期 昭和57年11月27日～12月19日

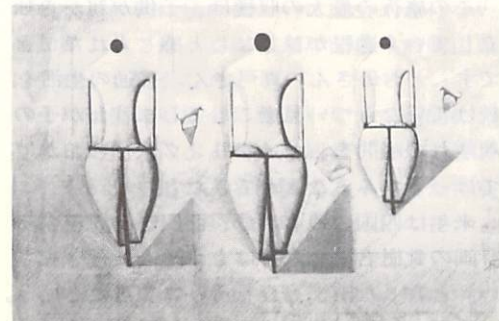
会場 自転車文化センター1階催事場

時間 午前10時～午後4時(休館日なし)

入場料 無料



真鍋 博 ピクニックサイクル



高橋幸彦 自転車三台